

洋一の新聞配達

洋一が高校生の頃、新聞配達していた時代があった。

新聞配達店は銀杏町で、洋一の配達区域は二枚橋方面、約百軒、毎朝一人で起きだし家族がまだ寝ている内に配達を終え帰ってくる。やりだしたら音を上げない頑張り屋さんだった。

大晦日の夜半に一センチ位の雪が降った。元旦に新聞店に行き自転車に予定の三分の一位積んで、出掛けたが、雪がタイヤに食い込んで、押しても駄目、困り果て思いついたのが、家にあるネコ（一輪車）である。ネコを取りに来た、訳を聞いたら、猫で二、三回運び配達すると云う。それを聞き跳ね起きた。「よし手伝う」と愛車のスカイラインバンに洋一を乗せ、新聞店に行き新聞を全部積み、二枚橋の近い家から配達を始めた。洋一の指示通りのコースを回った、車から新聞を一、二部ずつ抱え駆け足で配達だ。

配達を終え新聞店に帰ったら、あまりにも早いでビックリされた。

雨の日もあつたらう、風の日もあつたらう、よく頑張ったものだ、我が子の健気な姿を、まのあたりにし、洋一が頼もしく見えた元旦だった